【幼保小連携推進テーマ】
「子どもの育ちと学び」の相互理解
育ちの中での経験～学びへの繋がり

港北区大曽根地区
横浜市立大曽根小学校
大曽根コスモス保育園

テーマ設定の理由

★経験(育ち)から学びへの変容を通して、
子ども主体の豊かな成長に繋げる。

★職員間の交流を通し、子どもの育ちに対する
支援への相互理解を図る。

＜主な活動＞

①年度初めの職員間の打ち合わせ

②校内における職員の幼保小連携に対する思いをアンケート調査

③学校司書と近隣園との繋がり

④各学年による授業交流

⑤子どもの様子から見えた
育ちと学びの繋がり

今年度の重点課題　～職員間の交流～

子どもの安心　＝　幼稚園・保育園・小学校の先生が繋がっていること

一人ひとりの子どもが、
これまでどんな場所でどのように育ってきたのか…

→入学前までの育ちがあってこその学びに繋がる。
まずは、子どもを取り巻く大人が互いを知り、どんな思いで取り組んでいるのか理解し合うことが大切ではないだろうか。

①年度初めの職員間の打ち合わせ

〇近隣園の来校や幼保小教育交流事業の場で、
　直接顔を合わせた話合いができた。
〇今年度に取り組みたいことや連携に対する
　思いを共有することができた。
→　「**今年も、夏の研修をしたい！**」
→　「**個別支援学級の様子が知りたい！**」
→　「**体験的な活動がしたい！**」
➡年間の見通しを立てることに繋がった。

②校内における職員の幼保小連携に対する思いをアンケート調査

○年度初めに職員へアンケートを取り、幼保小連携に対する思いを聞いた。

- **学校司書より、「出張読み聞かせをやってみたい！」**
- **「今年度も、総合の学習で幼保小と繋がりたい！」**
- **「幼稚園・保育園で取り組んでいる“子どもが活動しやすい場の工夫“を見てみたい！」**

③学校司書と近隣園との繋がり

出張読み聞かせによる
学校司書との交流

学びに繋がる絵本のプレゼント

学校へ訪問するきっかけに繋がりました！

④各学年による授業交流

校内を散歩中に…

3年生の総合の学習

6年生のソーラン節を一緒に踊る年長組

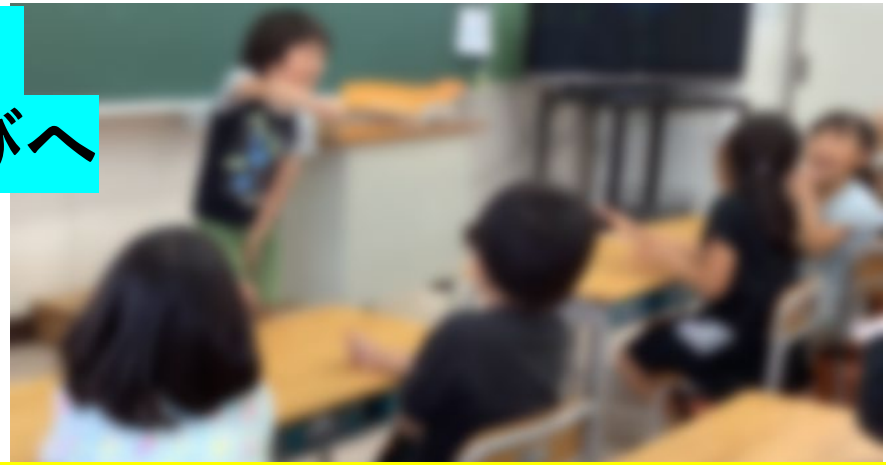
1年生との出会いの場

「ミニ先生になろう」プロジェクト

⑤子どもの様子から見えた育ちと学び

国語「おおきなかぶ」
劇の体験から学びへ

生活「かぜとなかよし」
感じていたのもから学びへ



スタートカリ「なかよしタイム」
手遊びの経験を仲間と楽しむ姿

図工「すなやつちとなかよし」
砂場あそびの経験から学びへ

算数「かたちあそび」
ブロックの体験から学びへ

給食「食育」
身近な食べ物から学ぶ

今年度のふりかえり【成果】

〇３年間の取り組みを通して、よりスムーズに様々な交流を行うことができた。特に今年は、クラス単位での交流だけでなく、学校司書との繋がりから交流を広げられた。

〇年度初めに職員同士で年間計画を立てる時間を設けたことで、互いに求めることを出し合い意味のある交流ができた。また、互いの実態を把握することで、子どものこれまでの育ちを意識して指導に繋げることができた。

【課題】

○年間計画を立てても、気候により計画通りに交流できなかったことも多かった為、ICTを活用した間接的な交流等、臨機応変な活動ができるとよかった。

○「総合的な学習の時間」での取り組みは、年単位で活動が一区切りとなる為、継続的な交流が望めない。

○子ども同士の双方向的なやりとりがより活発にできるように、もっと職員間で具体的な活動内容を年間カリキュラムで練っておく必要がある。

【次年度に向けて】

〇職員間の交流の継続

〇新１年担任と入学児童の情報交換の場の設定

〇年度初めの打ち合わせ実施

〇年度末の振り返り実施